

「やまぼうし」

令和6年2月29日発行 15号

発行所 公益社団法人岡山県看護協会
岡山訪問看護ステーション看護協会
Myステーション看護協会北長瀬
岡山居宅介護支援センター看護協会
岡山デイナーシング看護協会

〒703-8251 岡山市中区竹田 155-7
TEL (086) 901-1373

発行責任者 二宮 一枝

わが家で暮らし続けるために
安心をあなたに おだやかな時間をともに



【ご挨拶】

公益社団法人 岡山県看護協会
会長 二宮 一枝

ポストコロナにはいり穏やかな日常を取り戻しつつあるなか、令和6年元日に能登半島地震、翌日には羽田空港における航空機衝突事故の報に接しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災者の方々に心よりお見舞い申し上げますと共に、救援活動にご尽力されている皆様には、安全に留意されご活躍されることを念じ、一日も早く平穏な生活に戻られることを心からお祈りいたします。

幸いにも、岡山では穏やかな新年を迎えることができましたが、皆様方の「1年の計」はいかがでしょう。

平穏な一日の大切さは失って気づくことが多い事をコロナ禍や災害時に経験しました。吉田修一『永遠と横道世之介』の最後に、一步が世之介について「春の。夏の。秋の。冬の。そんななんでもない一日みたいな人。なんでもないけど、、、中略、、、でも、そばにいと、ほっとした。」と語ります。

私たち訪問看護ステーション・デイナーシング・居宅介護支援センターが掲げる「わが家で暮らし続けるために 安心をあなたに 穏やかな時間をともに」は、ご利用者様方がこのような「一日」をつみ重ねることができるよう、プロフェッショナルとしての看護の技と心で寄り添うことに他なりません。

岡山県看護協会は、皆様方の暖かいご理解・ご支援のお陰で、令和6年4月6日に創立50周年を迎えることとなりました。訪問看護事業を開始して31年目を迎えます。中区竹田の訪問看護ステーション及び北長瀬サテライト・療養通所介護（デイナーシング）・居宅介護支援に加え、北区のみつ訪問看護ステーションでは吉備中央町のサテライトに続いて令和6年4月には、岡山市立金川病院内に2番目のサテライトが開設される予定です。

人口減少のなか人生100年時代を迎え、2040年問題に対応した在宅医療における訪問看護への期待は大きいものがあります。私たちは利用者・ご家族、地域や関係機関の皆様方のニーズをしっかりと受けとめ寄り添い「昇竜」のごとく前進したいと思っています。

最後になりましたが、皆様方のご理解・ご支援への感謝とご健勝を祈念申し上げます。



「岡山県看護協会は頼りになる伴走者」

医療法人つばさ つばさクリニック岡山
院長 中村幸伸



当院は在宅医療専門の診療所であり、訪問看護や居宅介護支援事業所とは切っても切れない関係です。開院当初より岡山県看護協会の訪問看護ステーションの看護師さん、居宅介護支援センターのケアマネジャーさんとは密な連携をとらせていただいています。

この岡山でも高齢化や慢性疾患の増加、終末期を自宅で過ごしたいという方が増えています。在宅医療の現場では訪問看護師さんやケアマネジャーさんは患者さんやその家族にとって、心強いサポートとなる存在です。

看護協会とのかかわりで特筆すべきはその連携のしやすさとフットワークの軽さです。当院は比較的重症な在宅患者さんが多く、たくさんの方の医療的ケアを要したり、病状の変化が起こりやすい方もたくさんおられます。何のサポートもない状態からよーいドンで環境整備が必要になる事も多く、即日看護協会のケアマネジャーさんに急遽介入してもらってケアプランを立ててもらい、今日の明日で訪問看護に入ってもらおうといった無茶振りを何度も引き受けてくださっています。足を向けては眠れませんね。

訪問看護では、診療に比べて訪問看護のほうが患者さんを見る機会が多い事もあり、診療の間の患者さんの状態を的確に把握して報告・連絡・相談をいただけます。患者さんの身体のケアはもちろん家族を含めた心のケアにまで配慮し、さらに点滴や注射、床ずれの処置などの医療的処置にもしっかりと対応していただけるのがありがたいです。

また、看護協会は訪問系だけではなく、通所も頼りになります。岡山デイナースィング看護協会は他事業所のデイではなかなか受け入れ困難な人工呼吸器の患者さんや神経難病、末期の悪性腫瘍でたくさんケアが必要な方もみていただけるので本人だけではなく、家族も休まる時間を取れ、穏やかな療養が長続きする一助になっています。

この様に、岡山県看護協会はわれわれ在宅医療を提供する医療機関にとっても、在宅療養を続ける患者さんや家族にとっても頼りになる伴走者です。これからもよろしくお願いします。

【ご利用者・ご家族】



「看護を超えて」

肥塚 美保子



四年前の冬、私は突然、ダウン症児の母親になりました。高齢出産なのでどんなことがあっても受け入れるつもりでいましたが、それでもまさかという気持ちでした。出産当日、息子にはダウン症の可能性があるので検査すると告げられ、結果が出るまでの記憶は曖昧です。夜になると不安で泣いてしまい眠れず心身ともにぼろぼろの状態だったけれど、戸惑う家族を前に自分が何とかしなければという気持ちが強く、誰に対しても弱音は吐きませんでした。いつ叫び出してもおかしくないようなギリギリの心境で、せつかく誕生した我が子の誕生を心から喜ぶ余裕もありません。そんな中退院が決まり、病院のソーシャルワーカーさんが今後の生活プランを立てて下さり、看護協会さんにお世話になることになりました。息子に色々な機械が付いたままの退院を戸惑う私にソーシャルワーカーさんは「看護協会さんが就いてくれたよ。安心していいからね」と言いました。

退院後は週に一回のペースで訪問看護に来て下さいます。体調が落ち着いてからは理学療法士さんにもお世話になっています。体調や発達面を専門的に見て頂ける安心感はもちろんのこと、様々なことを話せる時間はとても貴重です。コロナ禍だった少し前までは体の弱い息子を連れて外に出るのが怖く、2人きりで家で過ごすばかりでした。ダウン症について誰かと話すことも出来ません。そのような中、看護やリハビリの合間にお話することでずいぶん心が癒されたし、挫けそうな時は支えて頂きました。ダウン症を彼の個性の一つだと思うようになり、息子がこんなにも愛しい存在になるとは、退院の日には想像も出来ませんでした。

嬉しいことも苦しいこともあったけれど、家族しか分からないようなほんの少しの成長と一緒に喜び、立ち塞がる様々な困難にも一緒に頭を悩ませて下さる看護協会の皆様のおかげで今日があります。心からの感謝とともに、今後ともどうぞよろしくお祈りいたします。



「ぬくもり」

吉田 敦子



認知症 15年目で要介護 5 の母が、病院で飲食を拒んでしまい 10 日間点滴のみとなって憔悴していきました。母は目を閉じたまま何も言えなかったので、自然のままを好んでいたことを大切に思い、とくに加療せず自宅療養を始めることにしました。

昨年 8 月に 93 才で亡くなるまでの 1 年 8 か月の間、ケアマネジャー、訪問診療、訪問看護、デイサービス、通所リハビリ、訪問入浴、薬局の皆様には大変お世話になりました。お陰様で、母は半世紀余り亡き父と慣れ親しんだ自宅で、最期まで穏やかな療養生活を送ることが出来ました。また、家族にも多くの助言、ご指導をいただいて安堵し心強くもあり貴重な経験が得られました。

とくに、ダイナーシングの皆様には、体が不自由な母を快く受け入れて下さり、専門的で温かい看護と介護を施していただきました。送迎時、職員さんの優しい声かけに開眼し、顔を向けて笑顔で応えようとしていた母の様子を忘れることが出来ません。

さらに、春には近くの神社へお花見に連れ出して下さいました。私は後ろから車で付いて行く途中、“誰が母子ともに一呼吸できるこんな幸せなひとときを施してくれようか”と思うと涙を堪えることが出来ませんでした。

亡くなった月のお盆には、母の夢を見ました。若い頃の後ろ姿だけで表情も分かりませんでした。無言で真っ暗な向こうの方へ一気に駆け抜けて逝ってしまいました。きっと彼岸から、会いたがっていた親兄弟や夫に呼ばれ導いてもらったのでしょう。

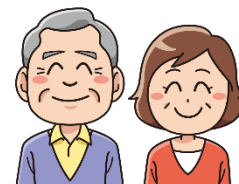
月日が経つのは早く年も替わりましたが、少しずつ片づけをすると様々な想いが込み上げてきます。可視的な母の姿しか見えず、これまでの母の一生に想いを寄せることがなかなか出来ず後悔しています。

その中で、最期まで母と家族の意を汲んで自然に寄り添って下さった方々に本当に感謝しています。そして、今後も変わらず自宅療養を望まれる多くの方々へ慈愛の手を差しのべて下さるよう陰ながら応援しています。



「感謝の日々」～今、できることを～

M.Y.



長期入院の夫にやっと退院する方向での話があった時、早く家で一緒に生活したいとの思いと今の状態の夫の介護が家でできるのかと大きな不安とが交差しました。その時、ケアマネージャーさんに「大丈夫、家でできるから」と、背中を押してもらって家での介護がスタートして1年1ヶ月が過ぎました。

看護協会のケアマネージャー・看護師・理学療法士・そして、デイサービス、かかりつけ医の訪問診療等、夫にかかわってくださる多くのみなさまの温かい訪問、温かい言葉かけ、温かい配慮・支援のおかげで私は、今では、「介護が私の仕事、家事は合間」と言えるようになりました。

みなさまに出会えたことに感謝の日々です。

この間には、いろいろなことがありました。

夫への対応の仕方や夫の体調の変化に困惑したときに、そして、介護者の私が突然体調不良になったときに、看護協会へ休日に、深夜に何度 SOS を発信したことでしょう。そのたびにいつでも早急に快く訪問していただきどれほど救われ私の心を軽くしてくださったことでしょう。看護師さんに先生に感謝です。

また、平日の訪問の際には夫の様子はもちろんですが、介護者の私の体調も気にしていただき優しいお心に前向きになる力をいくらいただいていることでしょう。

長期の入院に耐え、私に家で一緒に生活できる喜びを味わわせてくれている夫にも感謝です。少しずつ私なりの対応の仕方も身につけています。私のできる方法でこれからも多くの方のお力をお借りしながら私の仕事である介護を続けていきたいです。

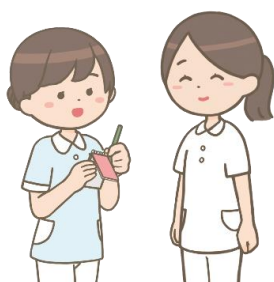
そして、もうひとつ私のできるがあります。

我が家へは、看護師さんに同伴して将来看護の道を歩む実習生が訪問されます。その際に必ず、訪問看護を利用している者として実習生に「今、毎日家で介護ができているのは訪問看護のおかげで、家で一緒に過ごせることができているととても助かっています。」と、私の思いを伝えています。

そして、卒業後は、様々な病状の患者の方への対応を様々な場所で多くの仲間と共に学び、ひとつひとつ経験を積んで仕事の継続を望むエールを送っています。その後は、ぜひ、看護協会の看護師さんのように訪問看護をしてほしいと話しています。

家での看護が無理なく安心してでき我が家で一緒に過ごせる幸せを感じている私の切なる願いである訪問看護師さんがひとりでも多く誕生されますように。

みなさまこれからもよろしく願いいたします。本当にありがとうございます。





アンケートへのご協力ありがとうございました



この度はお忙しい中、岡山デイナースィング看護協会のサービスに対するアンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

貴重なご意見を多く頂戴し、私たちの課題を再認識することができました。

【ご利用者様へのアンケート結果（回収率 64%）】

ご利用者様の年代は、年齢 60 歳代～90 歳代で、80 歳以上の方が 72%、独居及び高齢者世帯が 68%でした。

介護度は要介護 3 以上が 80%で、要介護 5 は全体の 60%でした。

態度や姿勢、看護・介護内容などは 96%の方から高評価を頂きました。

サービスなど説明については、できていると思われる方が 80%とやや低めでしたが、「その都度お話があり信頼しています」とのお言葉もあり、繰り返し説明が必要であると感じました。

食事やレクリエーションについては、できていると思われた方が 50%台で、無回答が 24%ありました。デイサービスでの様子が伝わっていると感じられた方は 76%でした。

アンケート回答者の中でご本人の回答は 2%に過ぎず、想いを表現しづらい利用者様が多く、ご家族にお伝えしている内容からのみ判断するのは難しかったと思われま

す。「一日の様子がわかり安心できる」「帰宅後の介護に役立ちました」「“〇〇したんだね”と話ができる」とのお言葉も頂いています。ご利用者の思いや様子を丁寧にくみとる関わりをし、ご利用中のご様子をご家族とコミュニケーションをとりながらお伝えしていきたいと思

【関連事業所へのアンケート結果（回収率 57%）】

どの設問に対しても 85%以上の「そう思う」の回答を頂きました。自由記載では「いつも早急に対応して頂いています。少しの変化でも連絡して下さいます」「要介護 5 で寝たきりのケースも受けて下さっています 家族の信頼度も高いです」などのお言葉を頂きました。

アーカイブカルテを活用などのご意見なども頂きました。今後、ICT を活用した連絡を検討していきたいと思

います。今後もいただいた意見を参考に皆様のご期待に沿えるよう一層邁進してまいります。

防災訓練

を行いました



災害はいつ起こるかわかりません。もしもに備えて定期的に防災訓練を実施しています。今回は火災を想定して、行いました。



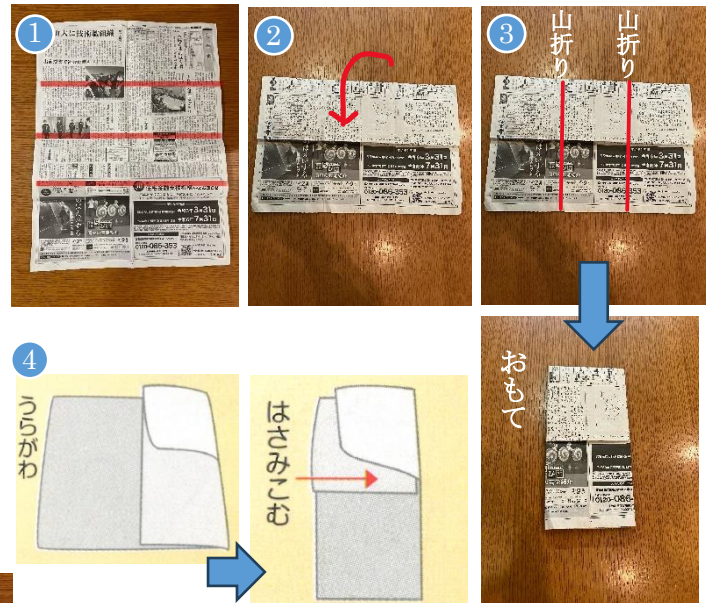
○古新聞でスリッパを作ってみよう！

もしも！の時に
役立つ古新聞活用法

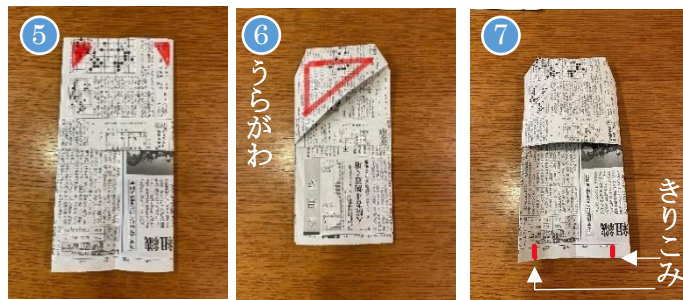
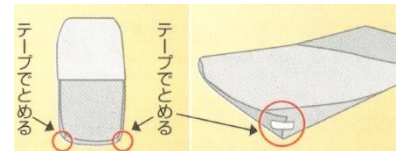
災害発生！足もとにはゴミや危険物がいっぱい！覚えておくと避難所でも役に立ちます。

【用意するもの：新聞紙2枚・セロハンテープ】

- ① 新聞の全面を縦2つに折り、さらに4つにたたんで（赤い線）折りしろをつける。
- ② 上から4分の1のところを前に折り、もう一度、前に折る。
- ③ 縦に3分の1のところ（赤い線）を後ろに折る。
- ④ 裏側の部分を、はさみこむように重ねる。
- ⑤ スリッパのつま先の部分の角を三角に折り、内側に折り込む。
- ⑥ スリッパを裏返し、底の部分を三角に折り、中に折り込む。



- ⑦ スリッパのかかとの部分に切り込みを入れ、重ねて、かかとの部分が立つように形を整えながら、セロハンテープで止めて完成！



* 新人職員紹介 *



昨年度入職しました。2年経ちますが、まだまだ毎日学びの日々です。ご利用者様やご家族が安心して過ごす事ができるように一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。
(看護師 中嶋 久美子)



5月より訪問看護ステーションに入職致しました。訪問看護も岡山も初めての所ですが、皆様に寄り添った看護が提供できるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。
(看護師 藤原 香奈子)

編集後記

30周年記念誌をはさみ「やまぼうし」は2年ぶりの発行となりました。いかがでしたか。元日に能登半島地震が起こり悲しい年明けとなりました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りしております。昨今の災害や戦争を目の当たりにすると、平穏な日々のありがたみが身に染みます。私たちも日頃から防災について意識し見直していくことが大切ですね。みんなが安心して笑って過ごせる年になりますように・・・。

